

大学の世界展開力強化事業 構想概要 愛媛大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(Ⅰ))

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

地域に立脚して一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーを養成する。

【構想の概要】

日本・インドネシア6大学で構成するコンソーシアムの下で両国の学士・修士課程の学生が、一緒に1週間から3ヶ月以上にわたり地域コミュニティに滞在して、現実の課題に取り組むサービスラーニングを実践する。修士・博士課程においては、共同学位(Joint Degree/Double Degree)プログラムを構築し、農学分野の実践的なフィールド調査・研究を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 事業統括組織による日本・インドネシア共同評価・PDCAサイクルの構築

サービスラーニング・プログラムは、各大学が全学的に管理し、継続的な教育効果の評価・改善・相互チェックをSUIJIコンソーシアム・サーバントリーダー養成センターが統括する。

○ 透明性、客観性の高い厳格な成績管理

日本・インドネシアの教員が同様の基準でラーニング・ポートフォリオでの到達度評価を行い、相互にチェックする。集約したポートフォリオの結果は、インターネットなどを利用したシステムとして、「就学支援システム」同様に一元的に管理する。

○ 単位の相互認定による評価

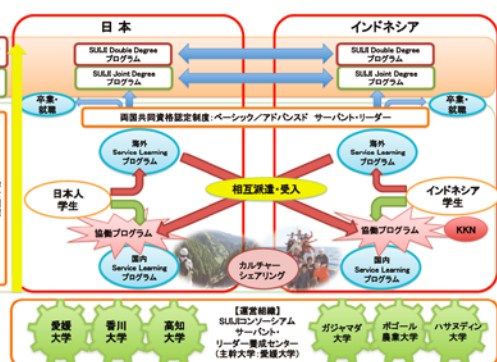
地域住民とのコミュニケーション、多様な専門分野を背景に持つ学生どうしのグループワークなどを学生の日誌や英語による成果報告に基づき評価。

〈インドネシア海フィールド実習〉



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈構成大学と交流プログラムの内容〉



○ 農山漁村サービスラーニング・プログラム

学生が主体となって農山漁村に入り、地域コミュニティの人々にヒアリングしながら問題群を発掘し、多様な主体との協調を通じて持続可能な未来社会のビジョンをデザインして、解決策を提示して実行に移す活動を実践。サーバントリーダーの資格を認定。

○ 大学院JD・DDプログラム

日本・インドネシア双方で共同研究が可能な6教育研究分野(森林、水循環、土壌、食品科学、植物環境制御、海洋生産)でJD・DDプログラムをスタート。

○ 6大学コンソーシアムの形成と共同統括を組織

日本・インドネシア6大学(愛媛大、香川大、高知大、ガジャマダ大、ボゴール農業大、ハサヌディン大)で構成するコンソーシアム(SUIJI: Six University Initiative Japan-Indonesia)のもとに、サーバントリーダー養成センターを組織。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣と外国人留学生の受入れ

派遣・受入れともに、シンメトリック・プログラムを構築して実施。日本インドネシアで学士課程の2年次と4年次に3週間以上の海外サービスラーニングを実施。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	31	51	69	80	97
学生の受入	28	37	55	61	69

(注)申請時の計画

修士課程では、相手国において日本・インドネシアで共同して開講する単位互換必修科目の履修と、コーディネート能力の育成を図るサービスラーニング・プログラムに参加。約1年の相手国農山漁村地域での研究を実施。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 統括組織「サーバントリーダー養成センター」による学生サポート

サーバントリーダー養成センターに配属する5名の専任教員により、カリキュラムの運営、資格の認定と管理、さらに国際基準に基づく質の保証を伴った協働教育の実施体制を構築。

○ 愛媛・インドネシア友好協会を通じた産官学連携体制による学生サポート

友好協会を通じて産官学との連携をはかり、外国人学生の企業体験の確保。また、インドネシアに進出している企業からの協力を得て、日本人学生の現地就職説明会を実施。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 6大学コンソーシアムSUIJI主催によるSUIJIセミナーを通じて世界に成果を発信

構成6大学が毎年輪番制で主催するSUIJIセミナーを毎年実施。学生代表によるサービスラーニング成果報告を実施する「学生フォーラム」、学生と教員による研究成果を報告する「学術フォーラム」と両フォーラムの成果を受けて6大学長会議でPDCAサイクルを実施する。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 愛媛大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービラーニング・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

地域に立脚して一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーを養成する。

【構想の概要】

日本・インドネシア6大学で構成するコンソーシアムの下で両国の学士・修士課程の学生が、一緒に1週間から3ヶ月以上にわたり地域コミュニティーに滞在して、現実の課題に取り組むサービラーニングを実践する。修士・博士課程においては、共同学位(Joint Degree, Double Degree)プログラムを構築し、農学分野の実践的なフィールド調査・研究を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 6大学コンソーシアムの下、事業を統括し、評価する体制を整備

日本・インドネシア6大学(愛媛大、香川大、高知大、ガジャマダ大、ボゴール農業大、ハサヌディン大)で構成するSUIJIコンソーシアムの下に、サーバント・リーダー養成センターを組織し、教育効果の評価・改善・相互チェックを統括する体制を整備した。

○ 6大学でプログラム実施の枠組み形成と共通基準の検討

6大学でプログラムの枠組みと実施体制に関する覚書を作成。また、6大学の教員が、学生の到達度を相互に評価し、質を保証するための共通評価基準の検討を開始した。

○ 教員間の情報共有システムの整備

独自サーバーを立ち上げ、Moodle等を活用し、国内3大学の担当教員間で教材や教育の進捗等をインターネットを通じて随時共有できる体制整備を開始した。



〈6大学会議でプログラムの枠組みと実施体制について協議: H25年3月、インドネシアにて〉

■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況



〈日本でのサービラーニングの試行: H24年10月〉

○ サービラーニング・プログラムの試行

日本・インドネシアの学生がともに農山漁村地域に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶサービラーニング・プログラムを、愛媛大学を拠点に2回試行(H24年10~12月とH25年3月)。この試行をもとに、H25年から本格始動するサーバント・リーダー養成プログラムのカリキュラムの検討を行った。

○ 大学院共同学位プログラムを開始

日本・インドネシア双方で共同研究が可能な6教育研究分野(森林、水循環、土壌、食品科学、植物環境制御、海洋生産)で共同学位プログラムを開始し、修士学生の派遣・受入を行った。

○ 外部評価委員会を開催

外部の専門家らによる外部評価委員会を開催(H25年3月)。プログラム実施内容を検証し、助言をえた。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

共同学位プログラムとして、愛媛大学の修士課程学生2名をインドネシアに派遣した(H24年11月~)。

○ 外国人留学生の受入

日本で実施したサービラーニング・プログラムに、インドネシア3大学から学部学生計14名を受入。共同学位プログラムでは、インドネシア3大学から修士課程の学生5名を受け入れた(H25年3月~)。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	2	51	69	80	97
学生の受入	19	37	55	61	69

注)H24は実績、H25以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 専任教職員の配置

プログラムの実施・運営にあたる専任教員を愛媛大学に2名(日本人とインドネシア人)、高知大学に1名配置し(香川大学にはH25年4月から配置)、愛媛大学には専任職員2名も配置した。インドネシア3大学ではプログラムを担当するコーディネーターが選任され、6大学で学生の派遣と受入を促進し、プログラムを実施・運営する体制が整備された。

○ 派遣・受入手続きをめぐる覚書の合意

特に長期留学を伴う共同学位プログラムに関しては、在籍大学における派遣学生の選抜、派遣・受入の手続きについて6大学で覚書に合意した。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ パンフレット作成、ホームページ開設

サーバント・リーダー養成プログラムの教育内容・カリキュラムを紹介するパンフレットを作成した。また、プログラムの進捗・成果を発信する基盤としてホームページを開設した。



大学の世界展開力強化事業 取組概要 愛媛大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービラーニング・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

地域に立脚して一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーを養成する。

【構想の概要】

日本・インドネシア6大学で構成するコンソーシアム(SUIJI)の下で両国の学士課程の学生が、一緒に1週間から3ヶ月以上にわたり地域コミュニティに滞在して、現実の課題に取り組むサービラーニングを実践する。修士・博士課程においては、共同学位(Joint Degree, Double Degree)プログラムを構築し、農学分野の実践的なフィールド調査・研究を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 6大学協働によるサービラーニング・プログラムに関する覚書の締結

日本・インドネシア6大学の学部学生を対象としたサービラーニング・プログラムに関する覚書を締結し(H25年8月)、質の保証を伴った実施体制を整備した。

○ 6大学共同学位プログラム(修士課程)の実施体制の改善

日本とインドネシアにおける共同学位プログラム(修士課程)の本格実施に伴い、事前にあげられていた課題(単位制度、カリキュラム内容の相違など)を6大学でチェックし、必要とされる改善策を講じた。

○ 6大学共同学位プログラム(博士課程)の実施にむけた検討の開始

博士課程における6大学共同学位プログラムの実施に向け、大学間で質の保証を確保するため、制度の検討を開始した。

〈インドネシアでのサービラーニング、小学校での活動風景、H26年2月〉



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

○ サービラーニング・プログラムの本格始動

6大学の学部学生がともに農山漁村地域に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶサービラーニング・プログラムを四国の5サイト(H25年8月)とインドネシア5サイト(H26年2月)で実施し、日・イの学生延べ約200名が参加した。

○ 修士課程共同学位プログラムを実施

農学関連分野における共同学位プログラム(修士課程)を実施し、研究内容に即した教員とのマッチングを図った。また、H26年9月に覚書締結を予定している博士課程共同学位プログラムの枠組みの検討を開始した。

○ 外部評価委員会を開催

外部の専門家らによる第二回外部評価委員会を開催(H25年12月)。プログラム実施内容を検証し、助言を得た。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

インドネシアで実施したサービラーニング・プログラムに、日本3大学から学部学生計58名を派遣。共同学位プログラムでは、修士課程の学生8名を派遣した。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	2	66	69	80	97
学生の受入	19	39	55	61	69

注)H24, H25は実績、H26以降は計画

○ 外国人留学生の受入

日本で実施したサービラーニング・プログラムに、インドネシア3大学から学部学生計33名を受入。共同学位プログラムでは、インドネシア3大学から修士課程の学生6名を受け入れた。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

渡航に先立ち、インドネシアの概要を理解するためのガイダンス、サバイバル・インドネシア語クラスを実施した。また、必要な入国ビザを円滑に取得できるよう、関係総領事館などと情報交換を図った。コンソーシアムの協定の下、派遣先では、宿舍の斡旋、生活面のサポートをインドネシア側大学が担った。

○ インドネシア人学生受入促進のための環境整備

インドネシア人学生の受入にあたって、宿舍の斡旋、生活面のサポートを日本側大学が担った。また、インドネシア人学生の渡航費用の一部について日本企業から支援を得た。

〈インドネシアで開催したサービラーニング成果発表セミナー、H26年3月〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ Facebookを通じた情報発信・共有

派遣・受入学生・教員間の情報共有と、取り組みの情報発信のメディアとしてFacebookを活用した。

○ セミナー、ワークショップを通じた成果発信

国際セミナー(H26年3月、インドネシア)やワークショップを開催し、成果を議論・発信した。

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 愛媛大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービラーニング・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

地域に立脚して一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーを養成する。

【構想の概要】

日本・インドネシア6大学で構成するコンソーシアム(SUIJI)の下で両国の学士課程の学生が、一緒に1週間から3ヶ月以上にわたり地域コミュニティに滞在して、現実の課題に取り組むサービラーニングを実践する。修士・博士課程においては、共同学位(Joint Degree, Double Degree)プログラムを構築し、農学分野の実践的なフィールド調査・研究を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 6大学共同学位プログラム(博士課程)に関する覚書の締結

昨年度から準備を進めていた、博士課程における6大学共同学位プログラムについて、覚書を締結し(H26年9月)、質の保証の伴った実施体制を整備した。

○ 6大学協働によるサービラーニング・プログラムの学生評価ルーブリックの検討

2年間の本格実践を踏まえ、養成すべき能力を5つに再整理した。より具体的な評価項目・指標によるルーブリックの作成を開始した。

○ 第3回外部評価委員会を開催

外部の専門家による第3回外部評価委員会を開催し(H27年1月)、質の保証を伴った大学間交流の枠組形成を検証し、プログラムの改善と持続性について助言を得た。

〈日・16大学学長が集まるSUIJIセミナー〉



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

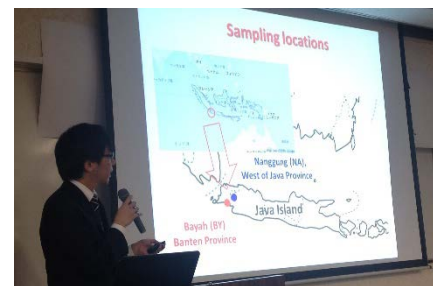
○ サービラーニング・プログラムの実施

6大学の学部学生がともに農山漁村に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶサービラーニング・プログラムを四国8サイト(H26年8月)とインドネシア5サイト(H27年2月)で実施し、日・イの学生延べ約220名が参加した。

○ 修士課程共同学位プログラムを実施

農学関連分野における共同学位プログラム(修士課程)を実施した。前年度に派遣・受入した学生の中から、日本人5名、インドネシア人2名が共同学位を取得・修了した。

〈共同学位プログラム学生による成果発表〉



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

インドネシアで実施したサービラーニング・プログラム等に、日本3大学から学部学生計53名を派遣。共同学位プログラムでは、修士課程の学生5名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

日本で実施したサービラーニング・プログラムに、インドネシア3大学から学部学生計39名を受入。共同学位プログラムでは、インドネシア3大学から修士課程の学生12名を受け入れた。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	2	66	58	80	97
学生の受入	19	39	51	61	69

注)H24-H26は実績, H27以降は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

渡航に先立ち、サバイバル・インドネシア語クラスを実施するとともに、e-Learningの形で提供するための準備を開始した。入国ビザを円滑に取得できるよう、関係総領事館などと情報交換を図った。コンソーシアムの協定の下、派遣先では、宿舍の斡旋、生活面のサポートをインドネシア側大学が担った。

○ インドネシア人学生受入促進のための環境整備

インドネシア人学生の受入にあたって、宿舍の斡旋、生活面のサポートを日本側大学が担った。また、インドネシア人学生の渡航費用の一部について日本企業等から支援を得た。

〈国内サービラーニングに参加した学生たち〉



■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ セミナーやSNSを通じた成果発信

サービラーニングの成果を発信、議論する公開セミナーを愛媛大学(H27年1月)、ポゴール農業大学(H27年3月)にて開催し、延べ300名あまりが参加した。Facebookを通じた情報共有と成果発信を行った。

○ 映像記録による発信

海外サービラーニングのプロセスと成果をまとめた映像記録を学生が作成し、ケーブルテレビの番組として放映された。

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 愛媛大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービラーニング・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

地域に立脚して一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーを養成する。

【構想の概要】

日本・インドネシア6大学で構成するコンソーシアム(SUIJI)の下で両国の学士課程の学生が、一緒に1週間から3ヶ月以上にわたり地域コミュニティに滞在して、現実の課題に取り組むサービラーニングを実践する。修士・博士課程においては、共同学位(Joint Degree, Double Degree)プログラムを構築し、農学分野の実践的なフィールド調査・研究を行う。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈協定更新を終えて〉

○ 6大学コンソーシアム協定の更新

毎年開催するSUIJIセミナーにて、6大学コンソーシアム協定の更新を行い、更なる連携強化と今後の活動の発展に合意した。

○ 6大学協働によるサービラーニング・プログラムの学生評価ルーブリックの検討

3年間の本格実践を踏まえ、養成すべき能力を5つに再整理した。より具体的な評価項目・指標によるルーブリック形式の学生の自己評価シートを関係教員で整備し、活用している。

○ 第4回外部評価委員会を開催

外部の専門家らによる第4回外部評価委員会を開催し(H28年2月)、質の保証を伴った大学間交流の枠組形成を検証し、プログラムの改善と持続性について助言を得た。



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈最終成果発表に向けて英語での議論の様子〉



○ サービラーニング・プログラムの実施

6大学の学部学生がともに農山漁村に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶサービラーニング・プログラムを四国8サイト(H27年8月)とインドネシア5サイト(H28年2月)で実施し、日・イの学生延べ約230名が参加した。

○ 修士課程共同学位プログラムを実施

農学関連分野における共同学位プログラム(修士課程)を実施した。平成25・26・27年度にインドネシアに派遣した日本人学生の中から、6名に6大学コンソーシアムからプログラムの修了証書が授与された。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

インドネシアで実施したサービラーニング・プログラム等に、日本3大学から学部学生計64名を派遣。共同学位プログラムでは、修士課程の学生3名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

日本で実施したサービラーニング・プログラムに、インドネシア3大学から学部学生計40名を受入。共同学位プログラムでは、インドネシア3大学から修士課程の学生12名を受け入れた。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	2	66	58	67	97
学生の受入	19	39	51	52	69

注)H24-H27は実績、H28は計画

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進のための環境整備

渡航に先立ち、サバイバル・インドネシア語クラスを実施するとともに、e-Learningの形で提供するためのコンテンツ(8課分)を作成し、平成28年度後学期からの運用を予定している。入国ビザを円滑に取得できるよう、関係総領事館などと情報交換を図った。コンソーシアムの協定の下、派遣先では、宿舍の斡旋、生活面のサポートをインドネシア側大学が担った。

○ インドネシア人学生受入促進のための環境整備

インドネシア人学生の受入にあたって、宿舍の斡旋、生活面のサポートを日本側大学が担った。また、インドネシア人学生の渡航費用の一部について日本企業等から支援を得た。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ セミナーやSNSを通じた成果発信

サービラーニングの成果を発信、議論する成果発表会をボゴール農業大学(H28年3月)にて開催した。Facebookを通じた情報共有と成果発信を常時行っている。

○ 学会や研究雑誌での報告を通じた成果の発信

事業実施を通じた成果をフィールド教育や国際交流、地域づくりをテーマとした学会および研究誌で報告・発表した。

大学の世界展開力強化事業 H28取組概要 愛媛大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

地域に立脚して一次産業を中心とした未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーを養成する。

【構想の概要】

日本・インドネシア6大学で構成するコンソーシアム(SUIJI)の下で両国の学士課程の学生が、一緒に1週間から3週間以上にわたり地域コミュニティに滞在して、現実の課題に取り組むサービスラーニングを実践する。**修士・博士課程においては、共同(学位)プログラムを構築し、農学分野の実践的なフィールド調査・研究を行う。**

(覚書変更・締結を終えて)

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ SUIJI-JP-Ms, SUIJI-JP-Dc覚書の変更・締結

H28年9月にガジャマダ大学において開催したSUIJIセミナーにて、6大学(愛媛大学・香川大学・高知大学・ガジャマダ大学・ポゴール農業大学・ハサヌディン大学)は共同学位プログラム(JDP)から、より共同教育・研究に主眼をおいた共同プログラム(JP)への名称変更合意し、SUIJI-JP-MsおよびSUIJI-JP-Dcの覚書の変更・締結を行った。

○ 第5回外部評価委員会を開催

外部の専門家らによる第5回外部評価委員会を開催し(H28年11月)、質の保証を伴った大学間交流の枠組形成を検証し、プログラムの改善と持続性について助言を得た。



■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(国内サービスラーニング参加学生たち)



○ サービスラーニング・プログラムの実施

6大学の学部学生がともに農山漁村に滞在し、現実の課題に取り組みながら学ぶサービスラーニング・プログラムを四国8サイト(H28年8月)とインドネシア5サイト(H29年2月)で実施し、日・イの学生延べ約250名が参加した。

○ 大学院共同(学位)プログラムを実施

農学関連分野における共同(学位)プログラム(修士・博士課程)を実施した。インドネシアに派遣した日本人学生のうち5名に、6大学コンソーシアムからプログラムの修了証書が授与された。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

インドネシアで実施したサービスラーニング・プログラム等に、日本3大学から学士課程学生計69名を派遣。共同教育プログラムでは、修士課程の学生3名を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

日本で実施したサービスラーニング・プログラムに、インドネシア3大学から学部学生計39名を受入。共同教育プログラムでは、インドネシア3大学から修士課程の学生10名、博士課程の学生3名を受け入れた。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	2	66	58	67	72
学生の受入	19	39	51	52	52

■ 日本人学生の派遣・インドネシア人留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣促進

派遣学生を対象として、インドネシア語講座をe-Learningの形で提供するためのコンテンツを作成し、H28年度後学期からの運用を開始した。入国ビザを円滑に取得できるよう、関係総領事館などと情報交換を図った。コンソーシアムの協定の下、派遣先では、宿舍の斡旋、生活面のサポートをインドネシア側大学が担った。

○ インドネシア人学生受入促進

インドネシア人学生の受入にあたって、宿舍の斡旋、生活面のサポートを日本側大学が担った。また、インドネシア人学生の渡航費用の一部について日本企業等から支援を得た。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ 事業報告書の制作およびホームページの大幅リニューアル

補助事業の成果を記録・発信するために事業報告書を制作した。また従来のホームページを大幅にリニューアルし、情報発信の強化を行った。

○ セミナーやSNSを通じた成果発信

サービスラーニングの成果を発信、議論する成果発表会をポゴール農業大学にて開催した(H29年3月)。Facebook等のSNSを通じた情報共有と成果発信を随時行っている。

○ 学会や研究雑誌での報告を通じた成果の発信

事業実施を通じた成果をフィールド教育や国際交流、地域づくりをテーマとした学会および研究会で報告・発表した。